

豚丹毒にご注意を

令和7年7月

愛知県東部家畜保健衛生所

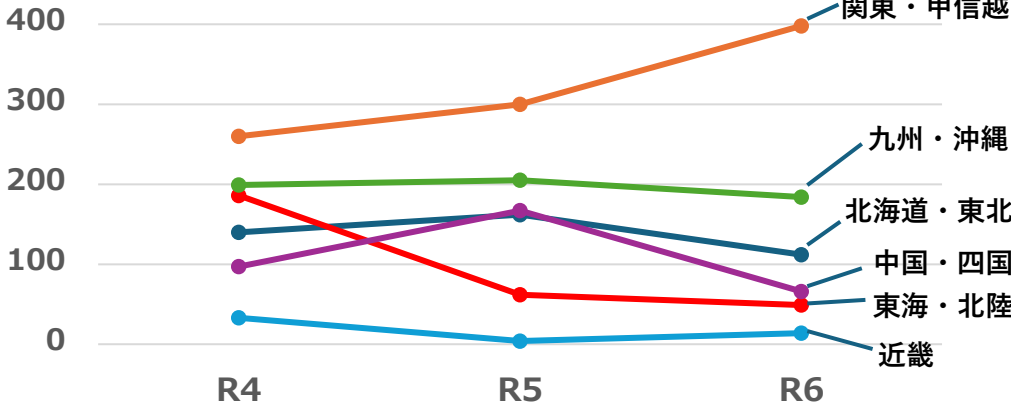
TEL: (0532)45-1141

FAX: (0532)48-8943

平成20年から平成23年にかけて全国で流行のあった遺伝子型の豚丹毒が近年、関東エリアで増加しています。日々の健康観察や確実なワクチン接種を継続してください。

○エリア別の豚丹毒発生推移

発生頭数



昨年度、
関東・甲信越エリアで
豚丹毒の発生増加！！

管内では、令和4年2頭、令和5年2頭、令和6年3頭、令和7年5頭（7月時点）の発生報告がありました（蕁麻疹型、関節炎型、心内膜炎型）。

- ・豚丹毒は、急性症状である蕁麻疹型、敗血症型と慢性症状の関節炎型、心内膜炎型がある
- ・関東エリアで急性敗血症型が増加していると報告あり

○急性敗血症型の特徴

- ・40℃以上の高熱
- ・全身のチアノーゼ
- ・1～2日で急死



蕁麻疹や菱形疹が見られずに倒れていくことも



翌日の様子

90～150日齢で爆発的に急死

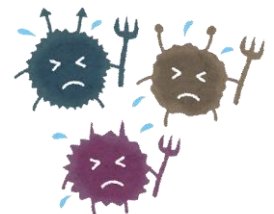
※22年関東 提供・協力 ささえあ製薬㈱

○発生疫学

- ・保菌豚の糞尿等を介した経口感染
- ・保菌動物（ネズミ）による伝播
- ・高温多湿、密飼い、輸送等のストレスが誘因

○対策と対処

- ・豚房から死亡豚の迅速な回収
 - ▶死亡豚の体内で急激に増殖
- ・飼育管理、衛生管理
 - ▶野生動物による二次汚染の防止
 - ▶豚舎内の洗浄、消毒、乾燥の徹底（消毒薬は選ばない）
- ・抗菌剤やワクチン
 - ▶ペニシリン系抗菌剤の10倍量3日間投与が有効（注射）
アモキシシリン、アンピシリンおよびペニシリンと
ストレプトマイシンの合剤（飼料添加・飲水添加）
 - ▶生ワクチン:抗菌剤の投与や移行抗体に注意（皮下1回接種）
不活化ワクチン:発生時にも非常に有効
（3～5週間隔で筋肉内2回接種）



何か気になる点がありましたら、家畜保健衛生所までご連絡ください。